



## 「感謝」と「笑顔」いっぱいの立花北小

年末に NHK のある番組を見ていた時のことです。一年を振り返り、新しい年の展望について話し合うという内容の番組で、出演者からは「給与は上がらない」「物価の高騰が止まらない」「世界的に続く対立や混乱にどのように向き合うか」等、重い話題ばかりが続いていました。そこへ番組の最後に登場したチコちゃんが、コメントを求められてこんなことを言いました。「気の持ちようが大事じゃないですか。」と。何かあったら大騒ぎして不平不満を膨らませるのではなく、平和に過ごせることにまずは感謝することが大事…というお話でした。チコちゃんの発言があまりに的を得ていて、本当にその通りだと思いました。



間もなく阪神淡路大震災から 30 年目の 1 月 17 日がやってきます。震災は、それまで当たり前だと思われていたものを一瞬のうちに奪い去りました。大切な家族や友人を失った人も沢山います。毎日、あたりまえのように目覚め、あたりまえのように学校へ来て、あたりまえのように友だちや先生と言葉を交わす。授業を受けたり、給食を食べたり、友だちとケンカしたり、先生に叱られたり…、そんな何気ない毎日も、実はあたりまえではなかったのだということに気づかされた 30 年前の震災でありました。震災直後は、お年寄りのすごさを目のあたりにしました。若い人たちは、政府の対応が遅い悪いと不足・不満を膨らませていましたが、そんな時、近所のお年寄りがこんなことを話されました。「戦争やないんやから、大騒ぎせんでも待てば水も食料も必ず来るんや。今大事なのは、健康を害さへんこと。せつかく生かされた命、病気で落とすのはあほらしい。みんな仲よく、明日は明日で何とかなるんや。」と近所の人たちを励ましてくれたのです。戦争を経験された方って本当にすごいな…と感心したことを思い出します。

子どもたちはもちろん、震災を知らない大人たちも増えてきました。「感謝の気持ちを持つこと」そして「自分の命をしっかり守ること」の大切さについて、今年も子どもたちと一緒にしっかり考えたいと思います。

令和7年が始まりました。「笑う門には福来る」という言葉があり、「笑顔の人のところには、幸せが集まって来る」という意味でつかわれます。あたりまえのことに「感謝」して、「笑顔」いっぱい、「幸せ」いっぱいの立花北小学校でありたいと思います。今年もどうぞよろしく願いいたします。



校長 佐野 正信